

ニュースレター No. 2

— 2018. 8月6日(月)～8日(水) —

【 概 要 】

平成30年8月6日(月)～8日(水)の2泊3日の日程で、「第15回ありみね高校生学びの森(2回目)」を18名の高校生及び16名の高等学校の先生方を講師にお迎えして開催しました。

8月は動物班・植物班に分かれて森の中を散策し、動植物の観察などの学習を通じて有峰の自然を体感していただくため、高校生と講師が一体となって学びました。

今年からは、旧有峰ハウスの使用を中止したことにより、昨年までは、旧有峰ハウスで行っていた動物班の内業をビジターセンターと有峰記念館の2箇所に分けて対応することとしました。

1日目、動物班は西谷の川で、魚・両生類・水生生物の採集をしました。次に桐山に移動してネズミを捕獲する罠を仕掛けました。また、土壌動物調査をするため、桐山の土壌を採集しました。植物班は冷タ谷遊歩道のミズナラ林で、方形区を設定し、ギャップを含む植生調査を行いました。

2日目、動物班は午前中、全員で猪根山遊歩道での昆虫調査をしました。午後からは折立の真川に移動して、魚・両生類・水生生物を採集し調査をしました。植物班は午前中、折立遊歩道に移動しライントランセクト調査とストリートビューを作るための写真撮影をしました。午後からは猪根山遊歩道のブナ林で、方形区を設定し、ギャップを含む植生調査を行いました。さらに土壌動物と植生の関係も調査しました。

最終日3日目は、動物班、植物班とも2日間で収集したデータをまとめ、報告発表の資料を作成し各グループごとに調査報告発表会を行いました。

動物班

哺乳類調査

- ・アカネズミー桐山でシャーマントラップ30台を設置し1匹を捕獲。
有峰ハウス別館裏山でシャーマントラップ30台設置し3匹を捕獲、他にヒミズ1匹も捕獲。
- ・ビジターセンター付近でツキノワグマ1頭目撃。まじかで見ると野生のクマにみんなビックリ！
- ・有峰庁舎前でキツネの糞発見。
- ・自動撮影カメラを回収しPCに取り込み映像を確認した。

魚類・両生類・爬虫類調査

- ・西谷の川でイワナ11匹捕獲。最大は50mm。
- ・イワナはサケ、マスの仲間それは、アブラヒレがあるのが特徴である。
3種のカエルを真川で捕獲。
- ・アズマヒキガエルー大きな鼓膜が目の後ろにあり、虹彩がオレンジ色であることが特徴。

- ・カジカガエルー指先に吸盤があり、足には縞模様がある。
- ・ヤマアカガエルー顎の下は黒い斑点があることが特徴。

3種のサンショウウオを捕獲

- ・クロサンショウウオ・・・頭とエラが大きい。
- ・ヒダサンショウウオ・・・爪が発達している。

ハコネサンショウウオ・・・爪が発達し頭は扁平。

- ・有峰ビジターセンターで飼育しているアオダイショウ・シマヘビ・ヒバカリの3個体を観察用に提供した。

水生昆虫調査

西谷の川と真川で採集

西谷の川では

- ・カゲロウ目—4種 49匹を採集。
- ・カワゲラ目—1種 23匹を採集。
- ・トビケラ目—3種 18匹を採集。
- ・その他、上記に属さない5匹を採集

真川では

- ・カゲロウ目—4種 519匹を採集。
- ・カワゲラ目—1種 16匹を採集。
- ・トビケラ目—3種 10匹を採集。
- ・その他、上記に属さない56匹を採集。

両方の川によって、カゲロウ目の採集に大きな違いがあった。

昆虫類調査

猪根山遊歩道で昆虫採集

・トノサマバッタ・アキアカネ・センチコガネ・ザトウムシ・モンキチョウ幼虫、成虫・コバネイナゴ・ハネナガイナゴ・ハヤシノウマオイ幼虫・カマキリモドキ・オオマメヒラタアブ・ニッポンマルハナバチヤドリ・ミヤマフキバッタ・ヒロバヒナバッタ・イヨシロオビアブ・ヒメキマダラヒカゲ・キンモンガを採集

- ・ホールトラップ法では不特定多数のアリ、オサムシ、カマドウマを捕獲。

土壌動物調査

桐山カラマツ林と猪根平ブナ林で採集した土から調べる。

- ・ハンドソーティング法とツルグレン法を使って土壌の中から動物を採取する。
- ・時間を要する細かい作業に取り組んでいる。
- ・特にトビムシ類とダニ類が多く生息していた。
- ・カラマツ林ではトビムシが多く全体の97%、ブナ・ミズナラ林ではダニが多く全体の40%であった。

植物班・・・今回、初めてストリートビューを作ってみました。

冷夕谷遊歩道での調査

- ・ギャップを含むミズナラ林の調査

場 所：遊歩道北口から 200m入った地点

調査方法：方形区調査

林内に(16m×16m)の調査区を設定し、区内の2m以上の樹木を対象に種名、位置(X軸、Y軸で表す)胸高周囲、樹高、樹冠を測定。

結果：ミズナラの樹冠面積が76.7%を占め優占種とした。

・ストリートビューを作る

場所：遊歩道北口から中央口までの間

調査方法：区間内に7か所を設定、180°×2のパノラマ撮影をし、各地点での植生や特徴を記録した。

結果：7か所の優占種はミズナラ、トチノキ、シラカバであった。

ミズナラの倒木によるギャップの林床にはブナの幼木が見られた。

中央口付近はやがてシラカバからブナの林へと変化すると思われる。

折立遊歩道での調査

・ライントランセクト調査

場所：遊歩道折立口から500m入った地点で7年前に調査した場所(SA-A, ST-B 2か所)

調査方法：ライントランセクト調査

各調査地点に30mの巻尺を伸ばし5m毎に調査区間を設定し周辺の植物を目視し、樹高を3段階(高木、亜高木、低木)に分けて調査し植物の種名、樹高を記録。

結果：ST-A区間(標高1340M)ではダケカンバを優占種とし、次いでカラマツであった。

ST-B区間(標高1370M)では優占種はカラマツ、次いでスギ、ダケカンバである。

・ストリートビューを作る

場所：ST1～ST7までの区間

調査方法：遊歩道内10か所で、カメラを360°回しパノラマ撮影をした。

結果：標高1130M～1390Mという標高差がある遊歩道の各地点での植生が一目で分かり直感的に理解できるようになった。

猪根山遊歩道での調査

・ギャップを含むブナ林の調査

場所：有峰ハウス側入口より500m地点。

調査方法：方形区調査

結果：ブナの密度は、基底面積(94.5%)樹冠面積(87.6%)において、すべて最大値であり優占種とした。

斜度が40度と雪崩が発生しやすく、ミズナラやブナの倒木によりギャップが出来たと思われる。そのため林床まで日光が入るようになり、8年前の調査では、小さかったオオカメノ木やリョウブが著しく成長し、2m以上の個体数が増加したのだと推測できる。

・土壌調査

調査方法：方形区内の土壌を3か所採取し、1か所はツルグレン装置かけ調査した。

2008年の調査に従い、出現した全ての種に加点した。

結 果：1か所からはカニムシなども採取でき、全総評点は59点であったことから、ここは自然度の高い土壌であることがわかった。